

議会報告会・意見交換会報告書

開催日時	令和6年8月26日（月）午後7時0分 終了：午後8時47分
開催場所	鳥越コミュニティセンター 集会室1・2
対象団体	白山ろく町会協議会
参加人数	22人
出席議員	山本佳裕、原 卓二、大屋潤一、澤田昌幸（代理）、西川寿夫
役割分担	挨拶：大屋、司会：山本 報告：総務企画／山本、文教福祉／大屋、産業建設／原 意見交換 A班：原・大屋 B班：山本・澤田・西川

第2部 意見交換会

テーマ「防災」

A班

（意見1）

以前は地域ごとに過去の災害をマップに落とし込んだものを作成していた。防災の観点から非常に役立つものであったので、今後もそういったハザードマップがあるといい。

（意見2）

二次避難施設の環境が不便なところがたくさんある。自助、共助を充実すべき。各自で備蓄したものを集落で持ち寄ることが必要ではないか。

（意見3）

災害によって避難場所（避難の仕方）が違う。二次避難施設ではない場所に避難せざるを得ないケースもある。（白峰美杉の郷の上層階）

（意見4）

支援物資は二次避難施設にしか届かないのか。

（議員）

原則はそうだが、実際に避難された場所にも届けている。

（意見5）

白山ろく地域の避難場所について、災害の状況によっては普段と違う場所に避難する場合もあるので、情報の共有ができればいいと思う。また最近の豪雨は異常であり、田んぼダムも有効ではないか。

（意見6）

能登半島地震の際の孤立集落は、白山ろく地域でも起こり得る。しっかりとしたシミュレーションが必要だ。

(意見 7)

森本・富樫断層が心配だ。孤立集落を防ぐためにも、林道の復旧を急いでもらいたい。

B 班

(意見 1)

防災のハード面の整備は分かるが、ソフト面の運用に疑問がある。もっと手厚くしてほしい。

(意見 2)

市民サービスセンターから情報が伝わるが、そもそも職員が地元住民でないことが心配。

(意見 3)

町会と市の連絡体制について、町会の役員に市の情報を伝えるため、もっと手厚い方法を考えられないか。結ネット、LINE などのようにタイムリーに伝達するシステムを構築しては。LINEWORKS などもよい。

(意見 4)

行政と地区町内会とをつなぐことも重要でないか。今はできていないように感じる。

(意見 5)

ショートメールなど民生委員もタブレットを使っている。タブレットの配付も 1 つの手段かもしれない。

(意見 6)

防災無線は白山ろく地域では重要であり、流雪溝のつまりや熊の出没時などに有効。

(意見 7)

中山間地域であり、急な地形で孤立集落になりやすいので、備蓄品の分散配置が必要でないか。

(意見 8)

災害時に複数の水源地の確保やバイパスのルートが必要ではないか。

テーマ「過疎」

A 班

(意見 1)

白山ろく地域の高齢化率の高さは深刻だが、子供に白山ろく地域に残れとは言えない。

(意見 2)

めぐーるバスの便を増やしてほしいが、利用者が少ない。免許返納者も少なからずいるので違う形で支援をしてほしい。(シニアカー、デマンド交通や買い物支援) 買い物支援は民間業者の協力が必要ではないか。

（意見３）

しらみね大学村には 100 人の学生が参加し、地域に貢献してもらっている。これをもっと活用したい。

（意見４）

水田の大型化（圃場整備）が必要。小さい田んぼは機械が入らない。

B 班

（意見１）

猪、猿、熊などの有害鳥獣問題がある中、設置済の電子柵（メッシュ）も破れたりしている。耐用年数は 14 年だが、（現在 10 年くらいたっている）もう少し期間を短縮して対応できないか。

（意見２）

耕作放棄地が多く、草刈りなどの手伝いが必要。

（意見３）

山と田畑との緩衝帯の木を伐採し、もっと明るくしてほしい。森林環境譲与税を使い対応してほしい。

（意見４）

人口動態で 70～80 代が基軸になる超高齢地域なので、ほかよりも手厚くしてほしい。

（意見５）

中学生まではいいが、高校生になると金沢市などの都会に流れ、地元に戻ってこない。対策として、高校生の交通の補助があると地元に戻ってきやすくなるのではないか。

（意見６）

空家の対策として、壊したり再活用のために中を片付けるのが大変であり、補助を考えてほしい。

（その他意見）

熊の出没時は、以前まではすぐに屋外のスピーカーを利用して放送できたが、現在は家の中でしか聞くことができない。緊急時に市に連絡しても 30 分後でないと行政無線がならない。それでは遅いので、熊の出没時以外の場合でも早急に放送できるようにしてほしい。